



水稲管理情報

令和元年8月
J A 志賀
能登南部営農推進協議会

中生収穫編

「適期刈取り」、「適切な乾燥・調製」で品質向上！！

1 生育概況と当面の管理

- ・コシヒカリの出穂期は、志賀地区で7月30日、富来地区で7月31日に迎えたことから、本年の刈取り適期は、志賀地区9月4日～10日、富来地区9月3～9日の予想となっています(8/23時点)。
- ・7月24日の梅雨明け以降、高温となる日が続いています。今後も気温の高い日が続くことから高温登熟年(出穂以降、高温で経過)となる事が予想され、このような年は乳白粒や胴割粒の発生が多くなります。当面の管理は、刈取り直前まで適正な水管理(①乾かさない！②ずっと溜めない！③早期落水しない！)を継続し、登熟の向上に努めましょう。
- ・また、乾燥・調製の際の「もみ混入」や「肌ずれ」による落等が目立っています。適切な乾燥・調製を心掛け、品質の向上を目指しましょう。

2 刈取りまでの水管理 **【ポイント 刈取り直前まで適正な水管理を継続しましょう！】**

- ・登熟期の水管理は、品質や収量向上に最も重要な管理となります。間断通水を刈取り直前まで継続しましょう。

【間断通水の徹底】

- ポイント① 乾かさない！** ⇒ 3～5日間隔を目安に通水し、土壌の飽水状態を保ちましょう。
<注意> 日中の気温が30度を超える日が続くときは、できるだけ夕方に通水しましょう。
- ポイント② ずっと溜めない！** ⇒ 気温が高い日中の湛水状態は根の機能を低下させるため、避けましょう。
- ポイント③ 早期落水しない！** ⇒ 早期の落水は未熟粒や胴割粒の発生を助長するため、収穫直前まで通水をしましょう。

※台風が発生した場合は・・・台風の接近によりフェーン現象(熱風や高温)が発生する場合は、入水し一時的に湛水状態を保ち、稲体の急激な乾燥を防ぐようにしましょう。フェーン現象が治まったら、湛水状態をやめ、排水しましょう。

3 本年の刈取り時期の目安 (8月23日調査)

品 種	地区	出穂期	刈取り時期	(前年の刈取り時期)
コシヒカリ	志賀	7月30日	9月4日～10日 (籾黄化率 80～85%)	9月1日～6日
	富来	7月31日	9月3日～9日 (籾黄化率 80～85%)	9月3日～8日

籾黄化率80%の
穂のイメージ



[注意]刈取り時期は、出穂期や田植え時期、ほ場や生育条件、天候によって前後します。

★上記の刈取り時期は目安とし、ほ場の『籾黄化率』を必ず確認した上で、適期収穫に努めて下さい。

[参考]籾黄化率とは・・・1穂の全籾のうち、緑色素が消え黄色く変色した籾の数の割合のことです。

【高温登熟年:籾の黄化程度による刈取り適期判断の目安】

籾の黄化程度	30%	40%	50%	60%	70%	80%	85%	90%
刈取り適期	15～16日後	12～13日後	10日後	7～8日後	5日後	2～3日後	適期～刈終り	刈遅れ



収 穫 期 間

4 刈取り時期と刈取り作業 **【ポイント 籾の黄化率を確認し、刈遅れはしない！】**

(1) 刈取り時期について

- ・高温登熟年は、籾の黄化が早くなるため刈取り適期が短く、刈遅れると「胴割粒」や「着色米」が発生しやすくなります。
- ・高温登熟年では上記の刈取り目安を参考に、適期刈取りに努めましょう。

(2)刈取り作業の注意点

①刈取り前に、ほ場内のクサネムを必ず除去しましょう。

・クサネムの種子(右写真)は、ライスグレーダーで取り除けないため、異物混入で落等の原因となります。



クサネム種子(黒い粒:左)

②早期に倒伏した部分や早期に登熟(ヤケ照り)した部分は、別刈り・別乾燥で調製しましょう。

・早期に倒伏した部分は乳白粒等の未熟粒が発生しやすく、水不足等で早期に登熟(ヤケ照り)した部分は、胴割粒・未熟粒・着色粒が発生しやすくなります。
・倒伏したほ場を刈取りする場合は、倒れている方向に向かって刈取りましょう。倒れている方向と反対側の方向に刈取ると、コンバインの中で籾が詰まり、刈残しが増加することがあります。

③刈取った籾は、速やかに乾燥機に張込みましょう。

・刈取りから3時間以内に乾燥機へ張込み、通風しておくことで、ヤケ米の発生を防止することができます。
・水分が高い籾はヤケ米の発生を助長するので、降雨直後などは無理に収穫を行なわないようにしましょう。

5 乾燥・調製作業

(1) 乾燥作業の注意点

①急激な乾燥や高温乾燥は避けましょう。

・乾燥は35℃以下で、乾減率0.8～1.0%/時程度としましょう。
・急激な乾燥や高温乾燥は、胴割米の発生原因となりますので注意して下さい。

【注意】

水分ムラがある状態で、一度に乾燥させてしまうと、元々水分の少なかった籾は過乾燥となり、胴割粒の発生が増加します。

②籾水分のムラ、余熟乾燥や戻り乾燥に留意しましょう。

・籾水分は、14.5～15.0%になるように仕上げましょう。
・籾の水分過多では「肌ずれ」、過乾燥では「胴割粒」が発生しやすくなるので注意しましょう。
・高温登熟年は、適期に収穫しても籾の水分にムラがあるため、『2段乾燥法』を用いましょう。

【乾燥機の停止水分判定表】

100粒中の青米粒	乾燥機を止める玄米水分	乾燥機停止後の水分変化
0～5粒	15.5～15.1%	乾く(下がる)
6～10粒	15.0～14.6%	ほとんど変わらない
11粒以上	14.5%	戻る(上がる)

[参考] 2段乾燥法とは……

籾水分が18%程度で一度乾燥機を止め、5～8時間後調湿した後に、14.5～15.0%に仕上げ乾燥を行う方法のことです。

・青米粒の混入割合によって、乾燥機停止後の水分変化が異なるため、注意しましょう(右表を参照)。

(2) 調製作業の注意点

①事前に籾摺機の点検整備を実施しましょう。

・「肌ずれ」、「胴割粒」の発生を抑えるため、籾摺前に籾水分(14.5～15.0%)を確認しましょう。
・作業開始前だけでなく、作業中も籾摺りの程度をこまめに確認しましょう。
・籾が混入している場合は、籾の流入量・ロール間隙等、選別機の調整して下さい。

②ロールの間隙は、籾厚の1/2が目安です。

・ロールの間隙を締めすぎると「胴割粒」や「肌ずれ」、広いと「もみ混入」が発生しやすくなるので注意しましょう。
・ロールが摩耗・劣化している場合は、交換して下さい。

③ライスグレーダーの網目のサイズはLL網(1.9mm)を使用し、整粒歩合80%を目指しましょう。

・ひやくまん穀は必ずLL網を使用して下さい。

【適期刈取り、適正な乾燥調製作業の徹底!!】

- ◎ 胴割粒の発生防止のため、収穫作業は籾黄化率80%から開始し85%までに終わらしましょう!
- ◎ ヤケ米発生防止のため、刈取った籾は速やかに乾燥機に張込みましょう!!
- ◎ 無理のない乾燥調製作業で、胴割粒、肌ずれ、籾混入の発生を防止しましょう!!!

【注意!!】カメムシ防除剤としてキラップ粉剤DLやキラップ粒剤、キラップフロアブルを散布した場合は、散布日から14日以降での刈取りを厳守して下さい(上記の農薬は、使用時期が「収穫14日前まで」と定められています)。